

# 第20回 子どもの本この1年を振り返って 2019年



本資料の一部または全てを無断で転載・複製・加工することは固くお断りいたします

## ■おすすめ図書リストの見方

★	小低	『なまえのないねこ』/竹下 文子・文, 町田 尚子・絵/小峰書店/2019. 4/ ¥1500/(絵本)
---	----	---------------------------------------------------------

特におすすめの図書は★で表示。「おすすめ図書紹介」で紹介しています

その図書に相当と思われる利用対象を表示しています

□図書の利用対象について  
利用対象の表記は以下の通りです。

「幼」=幼年

「中学」=中学校

「小低」=小学校低学年

「高校」=高校

「小中」=小学校中学年

「小高」=小学校高学年

□表記順について

各図書は、『書名 副書名(あれば)』(シリーズ名(同左)) / 責任表示 / 出版社 / 版年 / 金額(本体価格) / 分類 の順で記載しています。

絵本

	幼	『かわにくまがおっこちた』/リチャード・T. モリス・著, レウイン・ファム・絵, 木坂 涼・訳/岩崎書店/2019. 8/¥1500/(絵本)
--	---	--------------------------------------------------------------------------

上下巻・全集などの場合

★	小高	『はじめての万葉集 上』/萩原 昌好・編, 中島 梨絵・絵/あすなろ書房/2019. 7/¥1600/(911. 12)
---	----	--------------------------------------------------------------

	小高	『プログラミングガールズ! 1 ルーシーなぞのメッセージを追え』/ステイシア・ドイツ・作, 美馬 しょうこ・訳, 高橋 由季・絵, 石戸 奈々子・監修/偕成社/2019. 7/¥1200/(933. 7)
--	----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

『書名 巻数 副書名(あれば) 巻書名(同左)』(シリーズ名(同左)) / 責任表示 / 出版社 / 版年 / 金額(本体価格) / 分類 の順で記載しています。

本資料に掲載された「おすすめ図書リスト」は、「子どもの本2019」各選者の判断に基づき、お薦め図書として選書されたものです。

選書された図書の内容について保証もしくは宣伝するものではありませんので、図書リストは「おすすめ図書紹介」と併せてご覧いただき、皆様ご自身の判断に基づいて、ご参照くださいますようお願いいたします。

公益財団法人図書館振興財団

第20回 子どもの本 この1年を振り返って 2019年 おすすめ図書リスト

■ヤングアダルトの部■

YAA！日本子どもの本研究会 ヤングアダルト&アートブックス研究部会

須藤 倫子

元号が変わり、子どもたちをめぐる状況はますますサバイバルの様相を呈しています。本を手わたすことで少しでもその支えにと願う私たち周囲の大人への指針のように、映画「ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス」(フレデリック・ワイズマン監督)が公開され、碩学・竹内愨の『生きるための図書館』(岩波書店)が上梓されました。

知ることは生きのびる力にまっすぐ結びつきます。情報をつかみ、知識を身につけ、自分を守る力を手に入れる。2019年は社会のしくみを知る本、そして子どもたち自身に直接かかわる法律をとりあげた本がたくさん出ました。

また#MeTooの世界的な流れを受けて、性暴力被害者に寄り添うフラワーデモ、電車内痴漢加害を許さない#withyellow、職場でのハイヒール強要など身近なところから男女差別を考える#KooTooなど、日本ではこれまで隠されたりなかったことにされてきたセクシャリティに関わる問題に光をあてる運動が若い女性を中心に盛り上がり始めています。今、こういった動きに関心がないとしても、関係のない女子はいません。もちろん男子も。

大学入試改革の問題点に声をあげる高校生も出てきましたし、海外に比べると少ないものの環境ストライキに共感する若者も増えつつあります。現実を知り、起きている問題が何かを明らかにすることは、若者が前に進んでいくために欠かせません。自分が、友だちが、どんな世界に生きているのか。それを知ることはYA自身の生きる力になるのです。根拠が不確かなネットだけに頼らず、信頼性の高い本を選びとり使いこなすこともしっかりと伝えていきたいものです。

フィクションの読書傾向として、翻訳ものに手がのびにくくなっている、身の回りの延長線上の世界にしか興味を持たなくなっている、とこの数年言われ続けています。大人よりずっと共感能力が高く柔軟な感受性を持つ若い世代に、世界の広さと多様性を感じ取ってもらうためには、ノンフィクションはもちろんですがやはり物語も読んでほしい。どこかの誰かの話ではなく、自分とつながる回路をもつ相手のこととして。出版社ががんばって多様な本を出してくれている今のうちに、YAと本をつなぐ立場にいる私たちができることが問われています。

## ■プログラミング教育とアクティブ・ラーニング

中学	『girls who code 女の子の未来をひらくプログラミング』/レシュマ・サウジャニ・著, 鳥井 雪・訳, 杉浦 学・監訳, 阿部 和広・監修/日経BP/2019. 6/¥1800/(007. 64)
高校	『探究に役立つ! 学校司書と学ぶレポート・論文作成ガイド』(なるにはBOOKS 別巻)/東京都立高等学校学校司書会ラーニングスキルガイドプロジェクトチーム・編著/ペリかん社/2019. 11/¥1600/(375)

## ■歴史と今はつながっている

★	小高	『父さんはどうしてヒトラーに投票したの?』(エルくらぶ)/ディディエ・デニクス・文, PEF・絵, 湯川 順夫・訳, 戦争ホーキの会・訳/解放出版社/2019. 7/¥1800/(234. 074)
	高校	『トリック 「朝鮮人虐殺」をなかったことにしたい人たち』/加藤 直樹・著/ころから/2019. 6/¥1600/(210. 69)
	高校	『ネットと差別扇動 フェイク/ヘイト/部落差別』/谷口 真由美・著, 荻上 チキ・著, 津田 大介・著, 川口 泰司・著, 部落解放・人権研究所・編/解放出版社/2019. 10/¥1400/(361. 86)

## ■伝記～生き方のロールモデル

★	小高	『数字はわたしのことば ぜったいにあきらめなかった数学者ソフィー・ジェルマン』/シェリル・バードー・文, バーバラ・マクリントック・絵, 福本 友美子・訳/ほるぷ出版/2019. 1/¥1600/(絵本)
	小高	『PEACE AND ME わたしの平和 ノーベル平和賞12人の生きかた』/アリ・ウィンター・文, ミカエル・エル・ファティ・絵, 中井 はるの・訳/かもがわ出版/2019. 9/¥2000/(319. 8)
	小高	『名もなき花たちと 戦争混血孤児の家「エリザベス・サンダース・ホーム」』/小手鞠 るい・著/原書房/2019. 6/¥1300/(369. 43)
★	中学	『「危険なジェーン」とよばれても』(世界をみちびいた知られざる女性たち 2)/スザンヌ・スレード・文, アリス・ラターリー・絵, 小林 晶子・訳/岩崎書店/2019. 8/¥1600/(絵本)
★	中学	『天才たちの日課 女性編 自由な彼女たちの必ずしも自由でない日常』/メイソン・カーリー・著, 金原 瑞人・訳, 石田 文子・訳/フィルムアート社/2019. 9/¥1800/(702. 8)
★	高校	『キャパとゲルダ ふたりの戦場カメラマン』/マーク・アロンソン・著, マリナ・ブドーズ・著, 原田 勝・訳/あすなる書房/2019. 9/¥1800/(740. 253)

## ■社会のしくみを知る

★	小高	『民主主義は誰のもの?』(あしたのための本)/プランテルグループ・文, マルタ・ピナ・絵, 宇野 和美・訳/あかね書房/2019. 7/¥1800/(311. 7)
★	小高	『独裁政治とは?』(あしたのための本)/プランテルグループ・文, ミケル・カサル・絵, 宇野 和美・訳/あかね書房/2019. 7/¥1800/(313. 8)

★	小高	『社会格差はどこから？』(あしたのための本)/プランテルグループ・文, ジュアン・ネグレスコ ロール・絵, 宇野 和美・訳/あかね書房/2019. 7/¥1800/(361. 8)
★	小高	『女と男のちがって？』(あしたのための本)/プランテルグループ・文, ルシ・グティエレス・絵, 宇野 和美・訳/あかね書房/2019. 7/¥1800/(367. 1)
★	小高	『図解 はじめて学ぶみんなの政治』/アレックス・フリス・文, ロージー・ホア・文, ルイ・ストーウェ ル・文, ケラン・ストーバー・イラスト, ヒューゴ・ドローション・オリジナル監修, ダニエル・ヴィーホ フ・オリジナル監修, 浜崎 絵梨・訳, 国分 良成・監修/晶文社/2019. 1/¥1750/(310)
★	小高	『こども六法』/山崎 聡一郎・著, 伊藤 ハムスター・絵/弘文堂/2019. 8/¥1200/(320. 9 1)
	小高	『世界中の子どもの権利をまもる30の方法 だれひとり置き去りにしない!』/国際子ども権利セ ンター・編, 甲斐田 万智子・編, 荒牧 重人・監修/合同出版/2019. 10/¥1800/(369. 4)

### ■生きる権利を手に入れる

★	小高	『ふるさとして呼んでもいいですか 6歳で「移民」になった私の物語』/ナディ・著/大月書店/201 9. 6/¥1600/(334. 41)
	小高	『故郷の味は海をこえて 「難民」として日本に生きる』(ポプラ社ノンフィクション 37)/安田 菜 津紀・著・写真/ポプラ社/2019. 11/¥1400/(369. 38)
★	小高	『わたしが障害者じゃなくなる日 難病で動けなくてもふつうに生きられる世の中のつくりかた』/ 海老原 宏美・著/旬報社/2019. 6/¥1500/(369. 27)
★	中学	『ウーマン・イン・バトル 自由・平等・シスターフッド!』/マルタ・ブレイン・文, イェニー・ヨルダル・ 絵, 枇谷 玲子・訳/合同出版/2019. 7/¥1600/(367. 2)
	高校	『女たちのテロル』/ブレイディみかこ・著/岩波書店/2019. 5/¥1800/(367. 2)

### ■経済のしくみと働き方

★	中学	『10代からのワークルール 1 これだけは知っておきたい「働くこと」の決まり ワークルールっ てなんだ?』/上西 充子・監修, 朝倉 千夏・イラスト/旬報社/2019. 3/¥2800/(366. 14)
★	中学	『14歳からの資本主義 君たちが大人になるころの未来を変えるために』/丸山 俊一・著/大和 書房/2019. 2/¥1500/(332. 06)
	高校	『本業はオタクです。 シュミも楽しむあの人の仕事術』/劇団雌猫・著/中央公論新社/2019. 7 /¥1300/(336. 38)
★	高校	『<レンタルなんもしない人>というサービスをはじめます。 スペックゼロでお金と仕事と人間関 係をめぐって考えたこと』/レンタルなんもしない人・著/河出書房新社/2019. 5/¥1500/(91 6)

## ■サイエンス

★	小高	『ひとすじの光 写真科学絵本』/ウォルター・ウィック・文・写真, 千葉 茂樹・訳/小学館/2019. 7/¥2000/(425)
★	中学	『虫ぎらいはなおるかな? 昆虫の達人に教を乞う』(世界をカエルー10代からの羅針盤ー)/金井 真紀・文と絵/理論社/2019. 5/¥1200/(486. 04)
★	中学	『ぼくと数学の旅に出よう 真理を追い求めた1万年の物語』/ミカエル・ロネー・著, 山本 知子・訳, 川口 明百美・訳/NHK出版/2019. 1/¥1800/(410. 2)
	中学	『まちの植物のせかい そんなふう生きていたのね』/鈴木 純・文・写真/雷鳥社/2019. 9/¥1600/(470. 7)
★	高校	『動物園は進化する ゾウの飼育係が考えたこと』(ちくまプリマー新書 327)/川口 幸男・著, アラン・ルークロフト・著/筑摩書房/2019. 6/¥840/(489. 7)
★	高校	『宇宙から帰ってきた日本人 日本人宇宙飛行士全12人の証言 In Their Own Words: 12 Japanese Astronauts Return from Space』/稲泉 連・著/文藝春秋/2019. 11/¥1650/(538. 9)
★	高校	『生き物の死にざま』/稲垣 栄洋・著/草思社/2019. 7/¥1400/(481. 7)

## ■セクシャリティ

★	中学	『少女だった私に起きた、電車のなかでのすべてについて』/佐々木 くみ・著, エマニュエル・アルノー・著/イースト・プレス/2019. 12/¥1600/(953. 7)
	中学	『さよならミニスカート 02』(りぼんマスコットコミックス りぼん)/牧野 あおい・著/集英社/2019. 3/¥440/(726. 1)
	中学	『ナタンと呼んで 少女の身体で生まれた少年』/カトリーヌ・カストロ・原作, カンタン・ズウティオン・作画, 原 正人・訳/花伝社/2019. 4/¥1800/(956)
★	高校	『LGBT歴史ブック 絶対に諦めなかった人々の100年の闘い』/ジェローム・ポーレン・著, 北丸 雄二・訳/サウザンブックス社/2019. 12/¥2600/(367. 97)

## ■技術革新と環境問題

	小高	『スーパークールテック ビジュアル図鑑 世界のすごい技術 SUPER COOL TECH』/大津 祥子・訳, 上林 香織・訳, 神原 里枝・訳/すばる舎/2019. 6/¥4800/(504)
	中学	『2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs, 未来への展望』/落合 陽一・著/SBクリエイティブ/2019. 11/¥1500/(304)
	高校	『グレタ たったひとりのストライキ』/マレーナ・エルンマン・著, ベアタ・エルンマン・著, グレタ・トゥーンベリ・著, スヴァンテ・トゥーンベリ・著, 羽根 由・訳, 寺尾 まち子・訳/海と月社/2019. 10/¥1600/(519)

## ■日本の第一次産業

★	中学	『タネの未来 僕が15歳でタネの会社を起業したわけ』/小林 宙・著/家の光協会/2019. 9/ ¥1600/(615. 23)
★	中学	『農業高校へ行こう!』/全国農業高等学校長協会・監修/家の光協会/2019. 8/ ¥1600/(376. 41)
	高校	『結局、ウナギは食べていいのか問題』(岩波科学ライブラリー 286)/海部 健三・著/岩波書店/2019. 7/ ¥1200/(664. 695)

## ■アート

★	小高	『くろはおうさま』/メナナ・コティン・文, ロサナ・ファリア・絵, うの かずみ・訳/サウザンブックス社/2019. 10/ ¥3500/(絵本)
★	小高	『赤とんぼ』(乙女の本棚)/新美 南吉・著, ねこ助・絵/立東舎/2019. 2(「乙女の本棚」シリーズ 2019年刊行のものは他4冊あり)/ ¥1800/(913. 6)
★	中学	『青春ハンドメイド 1 あこがれスクールライフ イベントを盛り上げるコスチューム』/学研プラス/2019. 2/ ¥4200/(594)
★	中学	『青春ハンドメイド 2 あこがれスクールライフ スクールライフを楽しむアイテム』/学研プラス/2019. 2/ ¥4200/(594)
★	中学	『青春ハンドメイド 3 あこがれスクールライフ お部屋をいろいろインテリア・ツール』/学研プラス/2019. 2/ ¥4200/(594)
	中学	『独学シンガーソングライター 歌作り気づきノート』/片岡 大志・著/シンコーミュージック・エンタテイメント/2019. 9/ ¥1800/(767. 8)
★	中学	『ゼノビア』/モーテン・デュアー・文, ラース・ホーネマン・絵, 荒木 美弥子・訳/サウザンブックス社/2019. 10/ ¥2300/(726. 1)
★	高校	『Manga マンガ』/Nicole Coolidge Rousmaniere, Ryoko Matsuba/Thames & Hudson/2019. 5/(洋書)

## ■スポーツ

★	小高	『歴史を変えた50人の女性アスリートたち』/レイチェル・イグノトフスキー・著, 野中 モモ・訳/創元社/2019. 4/ ¥1800/(780. 28)
	高校	『国境を越えたスクラム ラグビー日本代表になった外国人選手たち』/山川 徹・著/中央公論新社/2019. 8/ ¥1800/(783. 48)
	高校	『スポーツと君たち 10代のためのスポーツ教養』/佐藤 善人・編著/大修館書店/2019. 9/ ¥1300/(780)



## ■ノンフィクション

	小高	『竜之介先生、走る！ 熊本地震で人とペットを救った動物病院』(ポプラ社ノンフィクション 35) /片野 ゆか・作, 高倉 陽樹・絵/ポプラ社/2019. 4/¥1400/(645. 6)
★	中学	『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー The Real British Secondary School Days』/ブレイディみかこ・著/新潮社/2019. 6/¥1350/(376. 333)
★	高校	『ガール・コード プログラミングで世界を変えた女子高生二人のほんとうのお話』(ele-king books)/ソフィー・ハウザー・著, アンドレア・ゴンザレス・著, 堀越 英美・訳/Pヴァイン/2019. 10/¥2270/(936)
	高校	『福島芸能の灯消さず 震災を生きる人々』/菊池 和子・写真・文/遊行社/2019. 2/¥2000/(386. 8126)

## ■新書

★	高校	『答えより問いを探して』(17歳の特別教室)/高橋 源一郎・著/講談社/2019. 8/¥1200/(816)
★	中学	『「空気」を読んでも従わない 生き苦しさからラクになる』(岩波ジュニア新書 893)/鴻上 尚史・著/岩波書店/2019. 4/¥820/(159. 7)
★	高校	『その情報はどこから？ ネット時代の情報選別力』(ちくまプリマー新書 320)/猪谷 千香・著/筑摩書房/2019. 2/¥740/(070)
	高校	『カガク力を強くする！』(岩波ジュニア新書 901)/元村 有希子・著/岩波書店/2019. 7/¥860/(404)
	高校	『「カッコいい」とは何か』(講談社現代新書 2529)/平野 啓一郎・著/講談社/2019. 7/¥1000/(914. 6)
★	高校	『日本の貧困女子 衰退途上にあるこの国のリアル』(SB新書 494)/中村 淳彦・著/SBクリエイティブ/2019. 11/¥870/(367. 21)
★	高校	『生きるための図書館 一人ひとりのために』(岩波新書 新赤版 1783)/竹内 哲・著/岩波書店/2019. 6/¥780/(010. 4)

## ■ことばの力

	小高	『ことばハンター 国語辞典はこうつくる』(ポプラ社ノンフィクション 33)/飯間 浩明・著/ポプラ社/2019. 1/¥1200/(813. 1)
★	小高	『ぼくがゆびをぱちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集』/斉藤 倫・著, 高野 文子・画/福音館書店/2019. 4/¥1200/(911. 5)
	高校	『しびれる短歌』(ちくまプリマー新書 318)/東 直子・著, 穂村 弘・著/筑摩書房/2019. 1/¥840/(911. 16)

## ■わたしの声がきこえますか

★	小高	『レディオワン』(飛ぶ教室の本)/齊藤 倫・著, クリハラ タカシ・画/光村図書出版/2019. 11/ ¥1200/(913. 6)
	高校	『どうかこの声が、あなたに届きますように』(文春文庫 あ77-1)/浅葉 なつ・著/文藝春秋/2019. 9/ ¥680/(913. 6)
★	小高	『アドリブ』/佐藤 まどか・著/あすなろ書房/2019. 10/¥1400/(913. 6)
★	中学	『アンチ』(STAMP BOOKS)/ヨナタン・ヤヴィン・作, 鴨志田 聡子・訳/岩波書店/2019. 9/ ¥1700/(929. 733)
★	中学	『瓶に入れた手紙』(文研じゅべにーる)/ヴァレリー・ゼナッティ・作, 伏見 操・訳/文研出版/2019. 4/ ¥1500/(953. 7)
★	中学	『秘密をもてないわたし』/ペニー・ジョエルソン・著, 河井 直子・訳/KADOKAWA/2019. 2/ ¥1400/(933. 7)

## ■スクールライフ

	小高	『ベストマン』/リチャード・ペック・作, 千葉 茂樹・訳/小学館/2019. 7/¥1500/(933. 7)
	小高	『月と珊瑚』(講談社・文学の扉)/上條 さなえ・著/講談社/2019. 7/¥1400/(913. 6)
	小高	『つくられた心』(teens' best selections 50)/佐藤 まどか・作, 浦田 健二・絵/ポプラ社/2019. 2/ ¥1400/(913. 6)
★	中学	『moja』/吉田 桃子・著/講談社/2019. 5/¥1300/(913. 6)
	中学	『世界は「 」で満ちている』(カラフルノベル)/櫻 いいよ・著, げみ・イラスト/PHP研究所/2019. 5/ ¥1200/(913. 6)
	中学	『きみの存在を意識する』(teens' best selections 51)/梨屋 アリエ・作/ポプラ社/2019. 8/ ¥1500/(913. 6)
	高校	『タスキメシー箱根一』/額賀 滯・著/小学館/2019. 11/¥1500/(913. 6)

## ■自分と出会う

	中学	『リスタート』/ゴードン・コーマン・著, 千葉 茂樹・訳/あすなろ書房/2019. 7/¥1600/(933. 7)
--	----	------------------------------------------------------------

	中学	『羊の告解』/いとう みく・著/静山社/2019. 3/¥1300/(913. 6)
★	高校	『アーモンド Almond』/ソン ウォンピョン・著, 矢島 暁子・訳/祥伝社/2019. 7/¥1600/(929. 13)
	高校	『彼女たちの場合は』/江國 香織・著/集英社/2019. 5/¥1800/(913. 6)
	高校	『線は、僕を描く』/砥上 裕将・著/講談社/2019. 7/¥1500/(913. 6)

### ■時代の波を越えて

★	小高	『明日をさがす旅 故郷を追われた子どもたち』/アラン・グラッツ・作, さくま ゆみこ・訳/福音館書店/2019. 11/¥2200/(933. 7)
★	小高	『フラミンゴボーイ』/マイケル・モーパーゴ・作, 杉田 七重・訳/小学館/2019. 10/¥1500/(933. 7)
	小高	『たいせつな人へ』/マイケル・モーパーゴ・著, バルー・絵, 杉田 七重・訳/あかね書房/2019. 4/¥1300/(933. 7)
	小高	『オオカミが来た朝』(世界傑作童話シリーズ)/ジュディス・クラーク・著, ふなと よし子・訳/福音館書店/2019. 9/¥1600/(933. 7)
★	中学	『この海を越えれば、わたしは』/ローレン・ウォーク・作, 中井 はるの・訳, 中井川 玲子・訳/さ・え・ら書房/2019. 10/¥1800/(933. 7)
★	高校	『あの夏のソウル』(YA! STAND UP)/イ ヒョン・著, 下橋 美和・訳/影書房/2019. 3/¥2200/(929. 13)

### ■ファンタジー

	小高	『魔法使いマーリンの犬 正 エクスカリバーをぬくのはだれだ?!』/エリック・カーン・ゲイル・作, 大山 泉・訳/評論社/2019. 1/¥1600/(933. 7)
	中学	『湖の国』/柏葉 幸子・作, 佐竹 美保・絵/講談社/2019. 10/¥1700/(913. 6)
	中学	『カッコーの歌』/フランシス・ハーディング・著, 児玉 敦子・訳/東京創元社/2019. 1/¥3300/(933. 7)
	中学	『ブライアーヒルの秘密の馬』(Sunnyside Books)/メガン・シェパード・作, リーヴァイ・ピンフォールド・絵, 原田 勝・訳, 澤田 亜沙美・訳/小峰書店/2019. 3/¥2000/(933. 7)
	高校	『白銀の墟 玄の月 1』(新潮文庫 お-37-62 十二国記 9-1)/小野 不由美・著/新潮社/2019. 10/¥670/(913. 6)

	高校	『オリシャ戦記 PART1 血と骨の子』/トミ・アデイエミ・著, 三辺 律子・訳/静山社/2019. 5/ ¥2700/(933. 7)
	高校	『三体 The Three—Body Problem』/劉 慈欣・著, 大森 望・訳, 光吉 さくら・訳, ワン チャイ・訳, 立原 透耶・監修/早川書房/2019. 7/¥1900/(923. 7)

#### ■本をめぐる本

★	中学	『日本のヤバい女の子 静かなる抵抗』/はらだ 有彩・著/柏書房/2019. 9/¥1400/(910. 2)
★	高校	『BOOKMARK 翻訳者による海外文学ブックガイド』/金原 瑞人・編, 三辺 律子・編/CCCメ ディアハウス/2019. 10/¥1500/(902. 3)
	高校	『全国作家記念館ガイド 全国258館』/作家記念館研究会・編/山川出版社/2019. 3/¥180 0/(910. 6)

■ヤングアダルトの部■

YAA！日本子どもの本研究会 ヤングアダルト&アートブックス研究部会

須藤 倫子

■2019年の子どもたちを取り巻く状況

元号が変わり、子どもたちをめぐる状況はますますサバイバルの様相を呈しています。本を手渡すことで、少しでもその支えにと願う周囲の大人への指針のように、映画「ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス」(フレデリック・ワイズマン監督)が公開され、竹内哲著『生きるための図書館』(岩波書店)が上梓されました。

知ることは生きのびる力にまっすぐ結びつきます。情報をつかみ、知識を身につけ、自分を守る力を手に入れる。2019年は社会のしくみを知る本、そして子どもたち自身に直接かかわる法律を取り上げた本がたくさん出ました。

「絵本」「フィクション」「ノンフィクション」の部は、それぞれ内容別のカテゴリでまとめられていますが、「ヤングアダルト」だけは対象年齢によるカテゴリ区分です。他部門と違い、扱う本はオールジャンル、多岐にわたります。そこで見やすいように、今回の図書リストではおおむねND Cに沿う形で本を並べてみました。

なお、リストに記載している「小高」=「小学校高学年から」、「中」=「中学生から」、「高」=「高校生から」等は、利用対象の目安です。

■総記【プログラミング教育とアクティブ・ラーニング】

このジャンルで挙げた『girls who code』(日経BP)と『探究に役立つ!学校司書と学ぶレポート・論文作成ガイド』(ぺりかん社)の2冊は、まずは司書・司書教諭が読んでおきたい本です。『girls who code』については、「文学【ノンフィクション】」でまた触れます。

■歴史【歴史と今はつながっている】

『父さんはどうしてヒトラーに投票したの?』(解放出版社)。ナチスとともにファシズムに突き進んでしまったこと、戦争責任について、戦後のドイツでは国を挙げて厳しい検証が行われました。YA文学においても、当時なぜ、どのように「熱にうかされていたか」を親に問う『父への四つの質問』(ホルスト=ブルガー作、偕成社、1982年刊)はじめ、加害性を問題にする作品が書かれてきました。日本の戦争児童文学は(体験談含め)、それが戦争を告発するものだったとしても被害者目線で書かれたものがほとんどなのは残念なことです。戦争は天災ではなく人災です。世紀が変わり、当時ナチスの侵攻を受けていたフランスで、この絵本が出版されました。フランス目線で侵略者を描くのではなく、ドイツの少年を語り手に「自分ごと」として書かれたものです。EUの時代ならではのアプローチ。市井の人の投票行動が独裁者に道を開いてしまった歴史を描きます。民主主義のあり方自体を問う作品にもなっています。

## ■歴史【伝記～生き方のロールモデル】

実在した数学者ソフィー・ジェルマンをモデルに描いた絵本『数字はわたしのことば』（ほるぷ出版）。彼女はフランス革命の真っ最中に数学のとりこに。フェルマーの最終定理を解く道筋をつけるなど、「19世紀のヒュパティア（古代アレクサンドリアで活躍した数学者・天文学者）」と呼ばれるほどの業績をあげますが、女性が学問に取り組むことが白眼視されていた時代、彼女を認めたのはラグランジェとガウス、稀代の天才2人のみでした。バーバラ・マクリントックの愛らしい（でもいつもよりリアルな）絵によって、「好きなことを思いっきり勉強できるのってしあわせ！」というソフィーの気持ちがストレートに伝わってきます。

『「危険なジェーン」とよばれても』（岩崎書店）は、社会事業家のほしり、ノーベル平和賞受賞者でもあるアメリカのジェーン・アダムスの伝記絵本です。アダムスは、私財で福祉センターを作って街の貧困に立ち向かい、シングルマザーを出産前後から職業的自立まで支援し、「平和をねがう女性の会」を作って世界平和の実現に力を尽しました。たとえ祖国から危険人物扱いされても（戦争反対を唱えると非国民扱いされたのです）。また本書では触れていませんが、LGBTの当事者として同じ悩みを持つ人々を支えました。まるで21世紀のNPO創設者の話のようですが、19世紀生まれで第二次世界大戦以前に亡くなった人です。「世界をみちびいた知られざる女性たち」シリーズの2冊め。

『天才たちの日課 女性編』（フィルムアート社）。最近よく見かける「残念な」ギャップ萌えを楽しむ本は伝記などでも増えていて、ちやかす要素が前面に出すぎているのは残念です。そのタイプの本かと思わせておいて、2014年に刊行された『天才たちの日課』は、偉人の日常に潜む、創造性の保ち方に光を当てた列伝でした。同じ著者によるこの続編、前作で女性が少なすぎたから補完のために作って見たら、女性はそもそもスタート台に立つまでが困難で、創造活動を続けていこうにも、その前にまず自分の場所や時間を確保するためにエネルギーの大半を費やさないといけない事に直面して著者（男性）はびっくり。女性からすればうんざりするくらいありふれた話で、ヴァージニア・ウルフが『自分ひとりの部屋』（平凡社、2015年）を書いてから、もう100年近く経つのですが。とはいえ素直に反省し、知らなかったことを貪欲に知ろうとがんばった著者のおかげで、この列伝は魅力的な作品となっています。

『キャパとゲルダ』（あすなる書房）。戦場カメラマンの代名詞「キャパ」はユダヤ系の若き恋人同士、アンドレ・フリードマンとゲルダ・ポホリレの覆面ユニットでした。正体が知れた後はロバート・キャパ&ゲルダ・タローを名乗り（「タロー」は、なんと当時パリで活動していた岡本太郎に由来していると言われていています。岡本と彼らはモンマルトルの芸術家仲間でした）、カメラを武器にスペイン内戦に飛び込んでいった2人の、愛と青春そして死。もちろん彼らの撮った写真満載です。

## ■社会【社会のしくみを知る】

「あしたのための本」シリーズ4巻（『民主主義は誰のもの？』『女と男のちがって？』『独裁政治とは？』『社会格差はどこから？』 あかね書房）。今現在の日本でまさに問題になっているテーマがずらりと並んでいます。実は元本が作られたのは40年前のスペイン。フランコ政権崩壊後

の混乱の中で、若者たちに新しい国づくりに参加してほしいと願って作られた社会学入門です。イラストは最新のものにリニューアル。本文も一部改訂され、日本語版には気鋭の学者陣による解説に加え、訳者や出版社からの呼びかけも。絵本のスタイルをとっていてルビも多いので、小学生から読めます。でも、高校生が手にとっても満足の1冊。ディベートのためのテキストとしても使えます。

『**図解 はじめて学ぶみんなの政治**』（晶文社）はイギリスの政治入門書。政治のしくみ、社会のしくみ、それは自分たちの生活にどうかかわっているか。「図解」とあるだけに、ビジュアルがとても工夫されていて、見やすいし分かりやすい。政治が「自分とは関係ない」なんてことはない、投票に行くだけが政治との関わりではないことが実感できる本です。

『**こども六法**』（弘文堂）は、2019年の児童書でいちばん話題になった本です。憲法は一応6年生の終わりごろに駆け足で習うけれど、子どもを助けてくれる法律って具体的にはどんなものがあるの？いじめの被害者として苦しんだり、加害者となってしまったりという少年時代を送った著者がまとめた子どものための法律集。いじめ被害者や虐待された子が、これを生かしてどんな場所や人にどうつながっていけばいいかまで書かれた、すぐ使える本です。子どもを支える立場にある大人にも役に立ちます。

## ■社会【生きる権利を手に入れる】

『**ふるさとって呼んでもいいですか**』（大月書店）。イランから家族で来日、オーバーステイ（超過滞在）のまま関東で育った少女ナディ。工場で働く両親と強制送還に怯えつつ、言葉や習慣の壁に何度もぶちあたりながら公立小で学び、11年後にようやく在留特別許可、定住資格を得て大学を卒業、就職。「イラン系日本人」として生きる彼女のこれまでとこれから。大月書店の編集・岩下氏が、当時高校生だったナディさんと出会って以来19年間機が熟すのを待って、この本を仕上げたのもすごいです。難民の食生活に着目した『故郷の味は海をこえて』（ポプラ社）と一緒に読むと、現代日本に渡来して生きるとはどういうことか、より立体的に体感できます。

『**わたしが障害者じゃなくなる日**』（旬報社）。「私に障害があるのはあなたのせい」と言われたら、ドキッとしますよね。でも病気であるのと、「障害がある」のは別のこと。社会を構成する私たちみんなが動けば、物理的な「障害」はなくせるのです。2019年に重度の身体障害を抱える参議院議員2人が初当選し、国会内の設備やシステム上の障害が可視化され、問題が少しずつ改善されつつあるように、社会はもっと変わることができるはず。この本は脊髄性筋萎縮症で車いすと人工呼吸器を使いつつ、介助を利用して一人暮らし、障害者の自立支援活動をする女性からの可能性に満ちた提言です。

『**ウーマン・イン・バトル**』（合同出版）。社会運動をとにかく「続ける」ことはほんとうに大事。このノルウェー発のコミックでは、エメリン・パンクハーストたちサフラジェット（イギリスの女性参政権運動の闘士）を中心に、150年にわたる女性たちの闘いが描かれています。財産を持つ権利、学ぶ権利、出産をめぐる自己決定権。自分の力で立ちたい、自分のことは自分で決めたい、そんなあたりまえの人間らしさを自分のものにするために、今もこの闘いは続いています。2歩下

げられてもまた3歩前に進めばいい。手を取りあって、励ましあいながら。

## ■社会【経済のしくみと働き方】

『10代からのワークルール』全4巻（『ワークルールってなんだ?』『こんなときこそワークルール! アルバイト編/就活・就職編』『ワークルールでつくる豊かな社会』旬報社）。ブラック企業につぶされないためにも、中高生はバイトや就活前に読むべし! 約束よりバイト代が少ない、勝手にシフトを組まれて困る、バイトでも有給休暇はとれる? 売れ残りは自腹で買い取りしなきゃダメ?といった具体的な困りごとや疑問に、ばっちり答えてくれる本です。

『14歳からの資本主義』（大和書房）。現代社会の大きな枠組みである「資本主義」そのものが壊れかけている今、世界経済がどういう方向へ行こうとしているのかをしっかりと解説。NHKの番組「欲望の資本主義」（2017～2019年放送の3シリーズ）が元になっています。日本人なら誰でも生まれた時からしっかり組み込まれてきた資本主義社会について、経済の動きについて、何を知っていることが大事なの?人々の「欲しい」と思う気持ちが突き動かしてきた資本主義の「これまで」の基礎知識を得て、「これから」を考えるヒントを整理するためのテキストです。14歳ではちょっと難しいかもしれませんが、経済を知るのに早すぎるということはありません。

『<レンタルなんもしない人>というサービスをはじめます。』（河出書房新社）。本書はコミック化、ドラマ化され、著者は今や時の人という印象もありますが、ご本人は「なんもしない」が最大目標。何もしない人が生きていたっていいんじゃない?という哲学からはじまった人材派遣は、交通費以外は無料。そしてただそこにいるだけ、というお仕事。どんな人が依頼するの?実際には何をするの?踏み込まないで&いてほしいの両立が、「赤の他人にいてもらう」で成立するとは盲点でした。ほんとうにしたいこと、してほしいことってなんでしょう。

## ■自然【サイエンス】

『ひとすじの光』（小学館）は、写真科学絵本『ひとすじの水』（あすなる書房、1998年6月刊）の作者による姉妹本です。「光とはなにか」「光がどう生まれるか」は文字で説明しようとすると難解ですが、著者の工夫された写真で視覚的に解説してもらえると、こんなにすんなりわかる! しかも美しい!STEM教育本としても使えます。「『ミッケ!』シリーズ（小学館）の作者」と紹介すると中高生も喜びます。

『虫ぎらいはなおるかな?』（理論社）。小さい頃は、ほとんどの子どもが虫大好きなのに、いつの間にか関心がなくなったり嫌いになるのはなぜでしょう。虫がどうにも苦手な著者が、虫のスペシャリストたちに話を聞いて回るうちに気持ちのポジションが変わっていく、なんだかRPGを攻略していくようなインタビュー集。虫がきらいな人も、好きな人も、興味深く読めます。

『ぼくと数学の旅に出よう』（NHK出版）。YouTubeでも大人気の、フランスの若き数学者が語りつくす人類と数学のおつきあい。原始時代に「数える」という概念はどのように生まれたか。ゼロの発見で何が変わったか。無限という考え方。虚数があらわすもの。円周率。マイナス×マイナスはなぜプラスとなるのか?「数学は苦手」という人ほど、おすすめのポップな本です。世



界史・考古学・哲学と、数学にもいろんな切り口があることが分かります。

『動物園は進化する』(筑摩書房)。動物園の人気者といえばゾウ。でも実は、飼うのも増やすのもとても難しい動物です。上野動物園で40年以上飼育員を務めた著者が、動物園の存在意義、今後について、ゾウ系の視点から綴ります。特に飼育員の安全確保のための努力の歴史はゾウならではの。お仕事本としても紹介できます。

『宇宙から帰ってきた日本人』(文藝春秋)。『宇宙からの帰還』(立花隆著、中央公論社、1983年刊)はアポロ乗組員などアメリカの宇宙飛行士対象で、宇宙の神秘を感じさせる内容でしたが、こちらは日本人宇宙飛行士12人へのインタビュー。今や宇宙は「長期出張先」、「仕事場」の1つ。遙かではあるけれど、日常の延長なんですね。

『生き物の死にざま』(草思社)は、さまざまな生き物の死の様相を、静かな文体とやさしいイラストで描きます。命のバトンをつなぐため、どう生き抜き、どう死ぬか。筆者は農学系の雑草生態学者です。そのためか、対象の擬人化や過度な感情移入は控えめ。植物を見つめるような見守り系の筆致が効果を上げています。

## ■自然【セクシャリティ】

YA世代は身体的には思春期。セクシャリティは最重要かつ非常にデリケートな課題です。私の勤務校では「こころとからだを考える本」として、4類の端に別置しています。

このジャンルで2018年に連載開始し、大きな話題となった牧野あおいのコミック『さよならミニスカート』(集英社)は、2019年に2巻が発売されました。ストーリーには女性専用車両の話題も。現在、雑誌「りぼん」・web「少年ジャンプ+」では休載中ですが、復活が強く待たれます。

『少女だった私に起きた、電車のなかでのすべてについて』(イースト・プレス)。こちらは中学から高校までの6年間、東京都内のJR山手線で毎日のように繰り返された痴漢行為(それも犯人は1人や2人ではなく、止めてくれる人は皆無)を告発する力強い本です。被害者である女性が自身の体験を、日本の満員電車事情にも詳しいフランスの作家と組んで小説化。2017年にフランスで『Tchikan(痴漢)』のタイトルで先行出版され、大きな話題を呼びました。そして2019年、事件の舞台である日本でも発売されました。痴漢被害に遭った時の気持ち悪さ、おぞましき、恐怖。母親に訴えても「あなたも悪いのよ」と叱られる。そんなときどうすればいいのかを教えてくれる人も本もなく、駅員も警察もあてにならない。自尊心は日々擦り減り、深刻なPTSDから自傷、自殺未遂へ…。性被害に遭った側がまず責められてしまう日本社会の不条理さと残酷さ、生きにくさが浮き彫りとなります。ここ数年、ようやく日本の女性たちも声をあげられるようになり、またメディアでも取り上げられ、日本語でもこの本が読めるようになりました。しかしインターネット上では、著者に心ない声を浴びせる人々もいます。日本はまだまだ「女性は黙って我慢するべし」な国なのです。

『LGBTヒストリーブック』(サウザンブックス社)はタイトルどおり、LGBTの人たちの権

利回復のための闘いの記録です。アメリカは100年でここまで来ました。サウザンブックス社P R I D E叢書は「セクシュアル・マイノリティが誇り高く生きていくための世界の本を出版していくシリーズ」。クラウドファンディングを活用しています。読みたい本を読み続けていけるように、本を買うこと、応援することは大事。

## ■技術【技術革新と環境問題】

環境問題に関しては、ノンフィクション部門のリストをご参照ください。SDGs、そしてグレタ・トゥーンベリさんに関しては、2020年にもっと本が出てくることを期待。

## ■産業【日本の第一次産業】

『タネの未来』(家の光協会)。野菜それも種の魅力にとりつかれた小林宙さんは、日本各地の伝統野菜を守るため、中学生にして自ら種苗流通会社を立ち上げます。現在、高校2年生の彼は、タネ流通の新しい仕組みづくりに奔走中。自分でも畑を借りて農作業に勤しんだり、タネ買い入れのための全国行脚をしたりと、彼の奮闘ぶりにわくわくするうちに、種子法のこと、遺伝子組み換えのことも、いつの間にか頭に入ってしまう。未来は若者の手にあります。

『農業高校へ行こう！』(家の光協会)。農業高校の今をリアルに伝えてくれる本は、これまでコミック『銀の匙』(荒川弘作、小学館 ※作者は酪農&畑作農家出身で、自身も農作業の担い手)くらいしかありませんでしたが、全国各地の農業高校の協力で、こんな本ができました。実習ではデニムや日本酒(!)といったご当地ものを手がける学校も多く、地域おこしに繋がっていたり。生きる実感が欲しいYAに(たとえ農業方面への進路はまったく考えていなくても)ぜひ読んでほしい1冊です。

## ■芸術【アート】

『くろはおうさま』(サウザンブックス社)は、絵本の部でも紹介されている、メキシコ発の体感型絵本。晴眼者(目に不自由を抱えていない人)も1度は目を閉じて、指先でゆっくりイラストを味わっていただきたいと思います。点字がわかる人は、文章もぜひ指でたどってみてください(日本語点字です)。絵本を読むという行為が実に官能的な体験であることを、YAにはあらためて感じてほしいので、あえてここでも紹介しました。黒って美しい。

「乙女の本棚」シリーズ(立東社 『赤とんぼ』ほか5冊)。文豪を登場人物として愛でるタイプの小説がライトノベルを中心として人気ですが、それらの読者層が、文豪たちの作品世界に触れることができるのが、このシリーズ。ゲームなど多ジャンルで活躍する人気イラストレーター(「絵師」と呼ばれます)たちが大挙登板。『檸檬』(梶井基次郎著、上記シリーズからはげみ絵、2017年7月刊)や『蜜柑』(芥川龍之介著、同左 げみ絵、2018年7月刊)は小学生男子にもよく読まれています。2019年に出版された作品は、他に『桜の森の満開の下』(坂口安吾著)『月夜とめがね』(小川未明著)など。2020年にも、まだまだ続刊が。

スクールライフを自分の手で充実させたい!そんな人のための本が、『青春ハンドメイド』シリーズ(学研プラス)。『イベントを盛り上げるコスチューム』『スクールライフを楽しむアイテム』

『お部屋をいろいろインテリア・ツール』の全3巻です。アイテム編では身の回り品、ポーチや御守の作り方を紹介。コスチューム編はチアの衣裳や応援用ハッピ、文化祭用のエプロン(フリフリだったり、カフェ風だったり、鉄板対策用だったり)が、これ1冊で作れてしまう充実ぶりです。家庭科の被服実習が苦手な人でも大丈夫。教科書よりわかりやすいミシンの使い方や布の処理法が、写真つきで載っています。インテリア編は自分のお部屋改造。お洒落な空間にするための様々なヒントをくれます。

『ゼノビア』(サウザンブックス社)。デンマーク発のグラフィックノベルは内戦下の現代シリアが舞台。村の少女アミーナは、つらいときは古代シリアの都市国家パルミラの女王ゼノビア(シリアでは現行紙幣に肖像が描かれるほどの国民的英雄で、ローマ帝国に正面から対抗して軍事と政治に力を発揮しました)を思っ強く生き抜こうとします。それは母さんとの約束でした。やっとの思いで国外脱出のための小舟に乗り込んだ時…。繊細な色づかいが印象的。世界15か国語に訳され、絶賛されています。背景が分かれば、小学生から読めます。

『Manga マンガ』(Thames & Hudson)。2019年の日本のアート界を揺るがしたイベントといえば、ロンドンの大英博物館展「Manga マンガ」でした。ハイカルチャーの最高峰ともいえるミュージアムでのサブカルチャー大特集は賛否両論だったそうですが、鳥獣戯画や北斎にはじまり、ストーリーもののコマの追い方の解説があるなど、マンガ文化をまるごと紹介する意欲に満ちたものでした。これはその展覧会の公式図録。英文とはいえ解説はシンプルなので、高校レベルの英語力で読むことができます。英語多読テキストにもよいかもかもしれません。メインビジュアルは『ゴールデンカムイ』(野田サトル作、集英社)のアシリパ(「リ」は小文字です)。今、ヨーロッパでは日本の先住民族であるアイヌの文化、旧石器時代の異色な芸術・縄文式土器と、これまであまり海外では知られてこなかった魅力に注目が集まり始めています。

## ■芸術【スポーツ】

『歴史を変えた50人の女性アスリートたち』(創元社)。日本のオリンピックの歴史をとりあげた2019年の大河ドラマ「いだてん」(NHK)で、女性アスリートとしては人見絹枝、前畑秀子らにスポットがあたりました。運動すれば「はしたない」、立派な体格をしていると「化け物」、記録を打ち立てると「今度はお嫁入りだね」、期待された結果が出ないと「だから女はだめなんだ」。そんな世間の勝手な声に打ちのめされながらも、自分らしく輝くために、そして自分の後につづく女性選手のために、戦い続けた人たちです。『世界を変えた50人の女性科学者たち』(2018年4月刊)の姉妹編であるこの本では、さらにダイナミックに近代スポーツの歴史を拓き、女性差別や報酬格差とも戦ってきた世界の女性を紹介しています。日本からは登山家・田部井淳子と柔道家・福田敬子が選ばれた他、日本版特設ページも追加されています。「私たちみんなそれぞれが、人を思いやり、自分に正直に人生を生きたいと願っている、脈打つ心臓を持った、ひとりの独立した人間なのです」by ビリー・ジーン・キング(テニス選手) (p. 44)。

## ■文学【ノンフィクション】

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(新潮社)はおそらく、2019年のノンフィクションでいちばん読まれた本(毎日出版文化賞、本屋大賞「2019年ノンフィクション本大賞」

など受賞多数)。ロンドンのカトリック名門小学校の生徒会長が選んだ進学先は、最近まで「荒れた学校」だった近所の公立中学校。アイルランドと日本にルーツを持つダブル（日本でも最近は「ハーフ」ではなく「ダブル」と名乗る当事者が増えています）の少年が飛び込んだ「差別」も「格差」も「分断」もある毎日を、気鋭のルポライターである母ちゃんが生き生きと綴ります。環境の変化をしなやかに受け入れ、新しいことに挑戦していく彼の姿は何とも魅力的。EU離脱に揺れるイギリスの現在進行形ルポとしても読みごたえ十分です。表紙もかっこよく、私の勤務校ではジャケ借りする子も多いです。ぜひ面出し展示をしてください。最近連載が終了したので、続刊にも期待。

『**ガール・コード**』（Pヴァイン）。人前で発表なんてとてもできない北欧系のソフィーと、両親の期待に応えすぎのフィリピン系のアンディ。アメリカの女子高校生向けプログラミング講座「Girls Who Code」で出会った2人は、課題でゲームを共同制作します。生理のタブー視を風刺する、その名も「タンポン・ラン」（敵にタンポンを投げつけてやっつける）！ネット上でも公開すると、なんと世界中から大反響が。2人はIT業界へ漕ぎ出すこととなります。講座の主催者（で同名のNPO創設者）レシュマ・サウジャニが書いた入門書が、実は今回のリストの冒頭で紹介した『**girls who code**』（日経BP）です。講座開設の狙いは、「女は理系に向いていない」といった、マイナスイメージの「女の子ってこういうもの」という決めつけから女の子たち自身を解放することでした。アメリカのプログラミング業界は女性の技術者、そして起業家の育成に、こんなに意欲的なのですね。

## ■【新書】

中高生の調べ学習に欠かせなくなってきたジュニア向け新書。特に最近の「岩波ジュニア新書」は表紙がポップで、内容はよりキャッチーになり、YA自身が積極的に手に取りやすい本が続々と出版されています。各出版社ではジュニア向けの中でも、さらに小学生から読める入門的なレーベルを作ろうという動きもあります。そんな旬のジャンルから紹介します。

『**答えより問いを探して**』（講談社）は、出版形態としては新書ではありませんが、内容的にはジュニア新書にとっても近いため、ここで紹介しました。実験小説の旗手にして、大学ではよくわかる文学の先生、新聞では鋭い時評で活躍する著者による、「読む」と「書く」をめぐる高校生向け白熱授業です。ライブ本ですので、授業に積極的に参加することが大好きな子であれば、小学生でもついていけます。「17歳の特別教室」シリーズの中でもとびきりわくわくする、そしていろいろ考えさせられてしまう1冊です。

『**「空気」を読んでも従わない**』（岩波書店）。若い人たちにとっては「日本を代表する演劇人」というより「人生相談の人」と認知されていそうな鴻上氏。「世間」に負けるな、「社会」を生きろ！というエールは、疎外感を感じている子にも、過剰適応している子にもどちらにも効きます。いじめや忖度が起きる背景にあるものも見えてきます。

『**その情報はどこから？**』（筑摩書房）。『つながる図書館』（ちくま新書、2014年1月刊）の著者が、その取材力・情報力を支えている選び取る「目」について惜しみなく明かしてくれます。情報の海で溺れてしまわないために読んでほしい1冊です。2016年の熊本地震時の「動物園から

ライオンが逃げた」Twitter拡散などの事例から、フェイクニュースがどう広まってしまうか、そしてファクトチェックの重要性が説かれます。

『日本の貧困女子』(SBクリエイティブ)。現代日本はもう先進国でもなければ中流社会でもない。セーフティネットが機能しない今日を生きる若い女性たちの経済的貧困、情報貧困、関係性の貧困に迫るルポ。貧困は、自分とは関係ない誰かの問題ではありません。

『生きるための図書館』(岩波書店)は、学校だけが学ぶ場所ではない、生きていくことは学ぶことなのだと思いつき始めたYAに手わたしたい1冊。司書が1人で読んで、ひっそり心の支えにしているだけではもったいない本です。図書館は単なる建物ではなく、人と本が会う現場、成長する有機体であることが実感できます。

### ■言語【ことばの力】

NDCだと911詩か913日本の物語のどちらかに分類される本ですが、ここで紹介させてください。『ぼくがゆびをばちんとならして、きみがおとなになるまえの詩集』(福音館書店)。小学生の「きみ」が「ぼく」の部屋にあがりこんで言うには、「せんせいが、おまえは本を読めっていうんだ。ことばがなっていないから」(p. 6)。そこで「ぼく」は詩集の1ページをひらき、手渡します。こうして紹介されていくさまざまな詩20篇と、その詩をめぐったりめぐらなかつたり、「きみ」と彼の父親の友人である「ぼく」との風通しのよい対話。物語と詩、どちらのコーナーに置くとより手に取ってもらえるか、利用者をにらみながら悩んでください。(本業は詩人の斉藤倫氏ですが、自作の詩は入っていません)

### ■文学【わたしの声がきこえますか】

『レディオワン』(光村図書出版)。「みなさん、こんばんわん。(～中略～)月曜夜九時。<レディオワン>の時間です。」(p. 24)とラジオで全国のリスナーに話しかけるのは、なんと人間の言葉が話せるようになってしまった犬のジョン。犬が語るという「設定」の番組は、犬の気持ちが分かっている！と大評判に。2019年に出版されたフィクションの中でも、とびきり魅力的な主人「犬」です(対抗できるのは、リスト掲載の『魔法使いマーリンの犬』(評論社)くらい)。売れない地下アイドルからDJになる『どうかこの声が、あなたに届きますように』(文藝春秋)と併せて図書リストに載せたのは、今の中高生って案外ラジオを聴いているからです。ラジカセではなく、スマホのアプリで。

『アドリブ』(あすなろ書房)。音楽用語アド・リブは「即興」、といっても台本にない小芝居のことではなく、ラテン語の「ad libitum」＝「自由に」に由来する言葉で、心のままに奏でる即興演奏を指します。イタリアの音楽院でフルート奏者をめざす日本人少年ユージ、15歳。心も体も大きく成長し変化する年頃、練習用のフルートを本格的な演奏用のもの買い替えるかどうかが今の大きな悩み。母子家庭で金銭的余裕が無い彼にとって、これは音楽を趣味に留めるか真剣に演奏家を目指すかの岐路。奏でる心を見失いそうになったとき、飛び入り参加させてもらった合宿で…。作者はイタリア在住で、現地でフルートのエリート教育を受けた娘さんの体験が作品に活かされています。生きることは人と会うこと、その喜びを表現する方法の1つが音楽なのです。

『アンチ』(岩波書店)。イスラエルのテルアビブに住む14歳の少年アンチは、伯父の自殺をきっかけにラップにはまっていきます。重い気持ちを叩きつけるように言葉を紡いでいくアンチ。クライマックスはラップのバトル大会。リズムと韻、言い回し、言葉と言葉での闘いはディスリ合いとリスペクトのせめぎ合いでもあります。真剣勝負の場で自らの心の扉をこじあける嘘のない姿にぞくぞくします。

『瓶に入れた手紙』(文研出版)。市内で自爆テロが起こった日、エルサレムに住むイスラエル人の少女タルは、パレスチナの人へ瓶に入れたメッセージを送ることを思いつきます。ガザ地区の若者がそれを海辺で拾ったことで、メールを介した奇妙な交流が始まりますが、文化の違い、社会の違いによって、2人の間に誤解が生まれたり、それが元で傷つけ合ったりもします。お互いの声が届くのか、受け取りあえるのか。タルの気持ちに寄り添っていけば、小学校高学年からでも読むことができる作品ですが、「パレスチナ問題」という背景については、大人が補足するとよいかもかもしれません。

『秘密をもてないわたし』(KADOKAWA)。ジェマは重度の脳性まひを持つ少女。そのため話をする事ができず、まばたきをすることすら、ままなりません。本当は鋭い知性と14歳らしい感性を持っているにも関わらず、それを人に伝える術がないのです。しかし、ある身近な殺人事件の真相に触れたことで、彼女は無力感やもどかしさからの脱出を図ります。いつも誰かに世話をされ、自分の肉体的秘密は何一つ持てない一方で、色々な人の心の秘密を押し付けられてきたジェマ。この作品は、自分を認めてもらえない少女がそれを克服していく物語です。最初は読者も彼女への同情を感じつつ読んだとしても、スリリングな展開にハラハラしながら主人公を応援し、やがてはすっかり自身のこととしてページをめくっていくこととなります。本書に登場するコミュニケーション用の機器は、実際にはまだ研究段階のものであるそう。実用化されると「ジェマ」たちの「声」になってくれるはず。ちなみに作者は介護現場の人です。

## ■文学【スクールライフ】

『ベストマン』(小学館)。小学生がメイン読者となる本なので★はつけませんでした。リチャード・ペックの遺作となったのでここで触れます。小学生男子があこがれる「カッコいい男＝ベストマン」とは。いかにもペックらしい、笑いと言がっぱいの家族の物語。千葉茂樹氏による翻訳の少年主人公は、薦められる物語本に限られがちな非読書派男子にもおススメです。

寝ても覚めても、自分の毛深さが頭から離れない理沙。かといってこんなこと、友だちには死んでも打ち明けられない。そんな悩める少女を描いた『moja』(講談社)。腕・脚・背中、ぎよつとされるような毛深さを隠すため、夏でも長袖を決してまくらず、プールの授業も理由をつけてはなんとか見学。母親は取り合ってくれないけど、中学生女子にとっては実存を揺るがす大きな悩みなのです。でもこの隠し事の存在が、なかよしグループとのあいだに溝をつくってしまいます。「知られたくない」と「わかってほしい」の間で揺れる思春期。

## ■文学【自分と出会う】

『アーモンド』(祥伝社)。生まれつき脳の扁桃体(アーモンドのような形をしている)が小さいユ

ンジェは喜怒哀楽が分からず、恐怖を感じ取ることもできません。家族が通り魔に襲われたときも、顔色ひとつ変えることがなかったため、周囲からは人でなしと思われ、忌避されます。一方で感情に動かされない彼は、世界を偏見なしに見つめることができます。そんな彼とは真逆の、荒ぶる感情のとりこのような同級生ゴニと因縁ができたユンジェは…。現代韓国YA文学最前線の作品です。

## ■文学【時代の波を越えて】

1939年ユダヤ人一家はドイツからキューバを目指し、1994年キューバ人一家はアメリカへ、2015年シリア人一家はドイツへ。3つの時代の3つの国で、それぞれ難民になってしまった家族の物語が同時進行で語られる『明日をさがす旅』(福音館書店)。交互に語られていく構成は先が見通しづらく、読者もまた一歩先の自分の運命の予測がつかない登場人物と一緒に足止めをくったり拘束されている気持ちになります。細い糸で最後につながる苦難に満ちた3つの旅は、実話を基にしているため、悲しかったり惨かったりもします。しかし、ひとすじの希望もまたそこにはあるのです。

ありとあらゆるパターンで戦争を書き続け、しかもハズレ作がまるでない脅威の作家モーパールによる最新作『フラミンゴボーイ』(小学館)。この本ではナチスのフランス侵攻時代を舞台に、片田舎に住むフラミンゴと話ができる発達遅滞の少年と、旅の一座のロマの少女との友情、そして一座の回転木馬を愛した、ドイツ兵を含むさまざまな人々を描きます。日本ではあまり知られていませんが、ナチスはユダヤ人だけでなく障がい者やロマの人々も迫害、アウシュヴィッツへ送っていました。

『この海を越えれば、わたしは』(さ・え・ら書房)。赤ん坊の頃に海から流れ着いたクロウは、彼女を拾って育ててくれた世捨て人とその友人以外の島人からは、不可触民のような扱いを受けています。ハンセン病の療養所があった島から流されてきたのでは、近づくたびにハンセン病がうつるのではと疑われているためです。クロウはその島へ渡り、自分のルーツを探し出すことを決意します…。実在の島を舞台に、海賊の秘宝探しもからめつつ、ハンセン病患者への差別を背景に少女の自分探しを描いた作品。『その年、わたしは嘘をおぼえた』(さ・え・ら書房、2018年10月刊)の作者・訳者による第2作目です。

『あの夏のソウル』(影書房)。戦後すぐの韓国の若者群像を描いた『1945、鉄原(チョロン)』(同上、2018年刊)、その3年後に始まる物語は、朝鮮戦争前後のソウルが舞台。『鉄原』の登場人物も一部、再登場します。半島の分断は家族を引き裂き、中学生たちの友情を踏みつぶしていきます。理想の国を作りたい、平和な国で幸せに暮らしたいという気持ちは、南でも北でもみな同じであるはずなのに。

## ■文学【ファンタジー】

読書界が大きく盛り上がった『白銀の墟 玄の月 1』(「新潮文庫 十二国記」, 新潮社)。物語好きが皆、首を長くして望んでいた「十二国記」シリーズです。でも、ちょっと待ってください。18年ぶりの新作長編ですが、今の高校生以下、18年前はまだ生まれていません。★をつけていないのはそれが理由です。手渡す側ばかりが盛り上がりせずに、シリーズの魅力をきちんと伝えてい

くひと工夫が必要でしょう。とりあえず今の子には、まず第6部『凶南の翼』（新潮社、2013年10月刊）あたりを手わたしてみるのはいかがでしょうか。

## ■文学【本をめぐる本】

昨年の『日本のヤバい女の子』の好評を受け、早々と出版された続編『日本のヤバい女の子 静かなる抵抗』（柏書房）。日本の古典文学の不幸なヒロインたちを現在の目で読んでいくと、不幸せどころか理不尽すぎ！筆者の共感力によってつむがれる、ヒロインたちとの時空を超えたシスターフッドに胸が熱くなります。寄り添い、どうすれば本来の自分らしく幸せになれたかを一緒に考えることで、私たちは呪いを解き合うことができる。古典を今の時代に読み直す意味は、こういうところにあると思います。

『BOOKMARK 翻訳者による海外文学ブックガイド』（CCCメディアハウス）。翻訳者が自身の訳したおすすめ海外小説を紹介する、ユニークで新鮮なフリーブックレット「BOOKMARK」が単行本化されました。見た目もおしゃれなブックレットは店頭ではあっという間に配布終了となるため、こうして3年分まとまって出版されたことは嬉しいです。「もっと海外文学を！」「翻訳物はおもしろいんだ！」という訳者の方々の主張に胸が熱くなります。世界文学最前線、とがった名作が勢ぞろいで純文学系の作品も多いため、YAにはハードルが高い本も多いかもしれませんが、背のびしたい読書好きならどっぷりはまるはずです。装丁もカッコいいです。

★はつけていませんが最後にもう1冊。『全国作家記念館ガイド』（山川出版社）。歌枕をたどった平安時代から、日本人は聖地巡りが大好きでした。文豪の足跡をたどりたい高校生におすすめの1冊です。文豪が大挙出演するライトノベルやアニメとのコラボ展示を積極的にすすめ、若い人にアピールしようとがんばる文学館は増えています。イベント参加が名作に親しむきっかけになるかもしれません。

なお、この2019年リストには哲学関連本があがっていませんが、もちろんYAには哲学本はとても大事です。私の勤務校では、今年リストからは、新書として紹介した『答えより問いを探して』（高橋源一郎著）と『「空気」を読んでも従わない』（鴻上尚史著）を、「てつがく」コーナーという授業に連動した別置コーナーに配架しています。いわゆる哲学書だけでなく、考えるヒント、生きるヒントになる本、哲学入門にもなる物語本や絵本などが並び、子どもたちが楽しく読書するコーナーになっています。ご参考までに。

（了）